



学校教育目標

自 ら 学 ぶ 子



「学び続ける子」「共に生きる子」「健やかな子」「浦島の子」「未来を創る子」

7月号 令和8年6月30日

体験学習＋コンサート＝仲間づくり

校長 金子 博美

梅雨の晴れ間を縫って、校庭で友達と遊んだりプールに入ったり、子どもたちは、元気いっぱいです。

4月～6月の期間は、子どもたちが新しい学年や学級の中で仲間づくりをするために大事な時期です。浦島小では、「4～6年生は、体験学習を通して仲間意識を育てるので、1～3年生にも、同時期に仲間意識を育てる取組が必要」と考え、タートルズコンサートを春に開催しています。合唱は、気持ちや心を一つにしてみんなで一緒に取り組むことを具体的に子どもが意識したりそのよさを実感したりすることができる活動です。「体験学習に行くこと」と「みんなで歌を歌うこと」を「取組内容は違っていても、子どもにとっては同じ価値のある活動」ととらえ、それぞれの活動を通して子ども同士がだんだん「仲間」になっていくことをめざしています。どちらも、学校でみんなと一緒にだからこそ取り組むことができる楽しさがあり、年度始めには、そういう活動が似合います。

振り返れば、5・6年生の子どもたちも、三浦や箱根での活動をととても楽しんでいました。バスの中やホテルで互いに声を掛け合ったり、しおりを見て一緒に考えたりしながら行動する姿から仲のよさを十分に感じました。4年生も、愛川へ向けて出発する姿は、みんな笑顔。元気よく手を振って出かけ、帰ってくるとすぐに「楽しかった、またいきたい」と満足そうでした。また、1・2・3年生も、みんなで一生懸命に歌や楽器の練習を繰り返し、本番は、歌声も心も一つになっていてとても良かったです。

「体験・コンサート」を通して、友達と仲良く取り組んだり学年・学級の人々と一緒に頑張ったりした子どもたちの姿を教師がしっかりと価値付けることによって、「楽しかった」という思いで終わらず、子どもたちが「みんなとやってよかった」という仲間意識や所属感をもつことにつなげることが大切です。この時期の仲間づくりの取組の成果を今後の行事や日常の子ども同士のかかわりにつなげていきたいと思っています。保護者の皆様や地域の方々、様々なところで支えてくださり、本当にありがとうございました。

6月18日 よこはま子ども国際平和スピーチコンテスト神奈川区選考会 ～日本の平和や国際平和のために～

自分の考えを自分の言葉で表現することによって国際平和に対する意識を高め、平和のために自ら達成しようとする態度を育てる取組に、学校の代表として参加した6年生のスピーチ（後半部分）を紹介します。

「ごめんなさい」で世界は変わる 6年 高橋あき

～中略～「ごめんなさい」は小さな争いをなくす言葉です。「ごめんなさい」を言えたら、一人でも多くの人が笑顔になれたかもしれないと私は考えるのです。私が経験した喧嘩も、「ごめんなさい」を言えばなくなったかもしれません。「ごめんなさい」をだれにでも言える関係に。「ごめんなさい」を言えば、少しでも喧嘩を減らせるかもしれない、世界が変わるかもしれない、世界が平和になるかもしれない。そんな期待を胸に、私は今日も「ごめんなさい」と言うのです。私はこの一言で、世界が平和になると考えるのです。

スピーチの冒頭で9か国語の「ごめんなさい」を挙げ、聞く人々をひきつけるスピーチでした。堂々とした姿もとても立派でした。校内予選会に出場した6年生も、当日は応援として参加しました。

このような経験をこれからの学校生活の中でも生かしてほしいです。

